

APEC女性と経済フォーラム 市長オープニングスピーチ抜粋 2012年6月29日 サンクトペテルブルグ

横浜市では、「中期4か年計画2010～2013」において初めて「女性による市民力アップ戦略」を打ち出して女性の社会進出に向けた取組を明確に位置づけ、国際会議等でも女性の活躍促進に向けた横浜の取組を発信している。特にAPEC（アジア太平洋経済協力）では、2010年の横浜開催を契機として「経済成長の原動力としての女性の活躍」についての議論が続けられており、経済の成長と繁栄には女性の参加と連携が不可欠だという認識が共有されている。ここでは、2012年6月にサンクトペテルブルグで開催されたAPEC女性と経済フォーラムでの、林文子市長によるオープニングスピーチを紹介する。

【女性の社会進出にける想い】

私が働き始めた47年前、女性の仕事は単純作業ばかりで、男性のアシスタントでした。しかも、結婚適齢期になったら辞めるのが当たり前でした。このような時代に、私は、当時、男性主体の分野であった車のセールスという仕事に出会い、女性ならではの感性をいかした営業スタイルでトップセールスとなりました。

その後、経営者としても、お客様や社員一人ひとりに向き合い、受容力や共感力という女性の強みを生かし、会社の業績を回復させてきました。

このように、男性主体だった経済分野に女性が参画することで、企業の業績が上がることを、私は身をもって実証してきました。

しかし、女性の経営者、行政トップはまだまだ少ないのが実情です。女性が働き続けることができる環境の整備も決して十分ではありません。

経済の成長および繁栄には女性の参加と連携が不可欠である、との共通認識に立つ私どもが、それぞれの地域において、「APEC女性と経済サミット宣言」いわゆる「サンフランシスコ宣言」（注）を、いかに具体的に進展させていくか。ポジティブアクションのステージへと力強く踏み出し、経済成長へと結びつけてまいりましょう。

【横浜の取組】

日本では、女性の社会進出を阻む大きな障壁は、出産・育児と仕事を両立するための制度やサービス量が脆弱であることです。

私は市長就任後、「待機児童をゼロにする」と宣言いたしました。周囲の反応は非常に冷ややかなものでした。「そんなこと実現できる訳ない」というのが、大半の行政関係

者・政治家の反応でした。一方で、働く意欲がありながら、子どもを預けられずに困窮していた女性たちからは、「期待しています」という激励の声を多くいただきました。

さまざまな対策を進めた結果、2012年4月には就任当初から88%も減り、いよいよゼロ達成がみえてきました。

さらには、横浜の取組が、他の自治体や政府にも影響を与え、待機児童の解消に向けた取組を後押しすることになり、大変うれしく思っています。

【日本の現状と国・経済界の動き】

横浜フォーラムの直後、日本政府が招集した男女共同参画を進めるための会議で、私は、野田総理に、「いまや官民ともに、女性の活躍や社会進出は、経済再生への不可欠な課題として、議論から実行に移す段階である。ポジティブアクションを起こすべきだ」と進言いたしました。

それからほどなく、日本政府は、日本再生に向けた戦略として、企業における女性活躍の現状の「見える化」や、企業を直接訪問して女性のさらなる幹部登用を要請する、として、一歩踏み込んだポジティブアクションを進めているところです。日本の経済界も、具体的な目標を掲げ、率先して努力し、これを経済戦略にしていこうとしています。

女性の全面的な社会・経済への参加なくして、我々の地域経済活動が十分な発展をなしとげられないという「サンフランシスコ宣言」に結実した考えが、日本社会に対しても確実に浸透しつつあることを示しています。



（注）サンフランシスコ宣言

2011年9月16日開催のサンフランシスコAPEC「女性と経済サミット・ハイレベル政策対話」（林市長も出席）において、女性が経済成長への貢献を効果的に高め、地域を越えた女性の経済的なエンパワーメントを強化するための「APEC女性と経済パートナーシップ（PPWE）」の設立歓迎等を含めた「APEC女性と経済サミット宣言」（サンフランシスコ宣言）を採択した。